□武川満夫・武川政江：**食卓さくもつ事典**　275 pp. 1981.（財）富民協会，大阪市 ¥1,300. 近頃食卓に昇るか昇り勝ちな食用作物，野菜及び果樹を大体150種に画を加えながら，簡単に来歴を主に，栄養，食卓の話題等も添えて述べたもの。各種の来歴がよくわかる。　（前川文夫）

□橋本　保（文）・神田　淳（写真）：**原色野生ラン**　246 pp., photos 198. 1981. 家の光協会，東京 ¥1,600. 家の光協会からは原色何々というのを色々出しているいるがそれとは少し違っている。一つは野生蘭撮影の専門家神田淳さんの写真を大幅に採用したことで，それは今日での最高位と思われるもので今後もにわかにはこれを超すことはできないだろう。各頁に全体の姿とそれに花を拡大した図を併載したのは，頁をとったけれどもすばらしかった。最後は橋本氏の本文である。私の書いた原色日本のランから10年経っていて，沖縄，小笠原を加えた82属，246種に触れ，その内で192種を図示し，多くの新知見を加え，*Aorchis, Acianthus, Evrardia* 等を新たに用い，また数種の稀少蘭について新考を述べてある点はまことに潑溂としている。色々な意見もあるが今日注目される文献として重要視されるべきものである。　（前川文夫）

□外山三郎：**長崎県植物誌 1980**　312 pp., 内 pls. 24. 1980 (1981). 長崎県生物学会 ¥2,800. これは1940,1957を経て3回目の出版物であり，ずいぶん整理されてすっきりした内容である。はじめに長崎県の分布大要がよく整頓され，ことに九州西廻り型分布について詳しく述べ，また国内帰化の新提案もある。次に長崎市と西彼杵，諫早，雲仙と島原，多良，東彼杵，佐世保と北松浦，平戸-生月-大島，五島，壱岐，対馬の10地方に分けて主な地方の植生状態や老木巨樹について記すが，ここは主に著者の経験が記され，往々辛棘な言葉があったり，県の天然記念物にするとの指示があったりする。おわりに2035種のリストがついている。長崎県は全県のひろがりはほぼ九州全土に等しいほどに広い。この広さと地形とから，分類や分布を論ずる人の一顧すべき文献と考える。　（前川文夫）

□川上幸男：**小石川植物園**　112 pp. 1981. 東京公園文庫14. 郷学舎，東京 ¥600. 金井利彦：**新宿御苑** 94 pp. 1980. 東京公園文庫 3. ¥600. 近頃こうした小冊で日比谷，井之頭など東京の諸公園の案内がでるようになったのでその内の二つを掲げて紹介することにした。両園ともにその歴史は古く幕府時代からつづいているが，新宿御苑の方はその半ばをそれに費やし，小石川の方は僅か10ページに足りない。何としても片寄りすぎているようだ。両方ともに園内の樹木について触れており，新宿御苑は東京都内での成長の限界かも知れぬ点で興味がある。小石川の野鳥はここ数年でまた変るかも知れないから，重要な現場の目撃として価値が多い。小石川の屋外樹木目録は貴重なものである。ここ数ケ月に40冊ほど東京の公園が書かれるが，お互いの関係を考慮して書いてほしいものである。　（前川文夫）